

令和2年度 8月号

令和2年7月31日発行

横浜市立東汲沢小学校

# “輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

## ひぐみっ子の中のひぐみっ子に期待

校長 丹羽正昇

学校が再開して、二か月。

授業は、ほぼ日課表どおりになり、給食も再開しました。休み時間も、校庭に元気な子どもの姿が確認できます。この二か月間、いかがだったでしょうか。仲間や友達に会えて、嬉しい毎日だと感じた子ども。授業が楽しいということ思い出した子ども。疲れがずいぶん溜まった子ども。いずれにせよ、ご家族や地域の皆様の協力があったの二か月間でした。ありがとうございました。

今、学校生活においては、三密の発生を避けて行動することが求められています。教室、体育館、音楽室、図工室、家庭科室、校庭等、学習する全ての場所で、常に三密が意識され、窮屈な状況での学びが余儀なくされています。そのような中、日々の子どもの姿をみていると考えたことがあります。それは、人と人が影響し合うことで生まれる「新しい学びのプロセス」についてです。今回は、最高学年である6年生の話をしたと思います。

学校教育活動の中に、学校探検という学校の中を巡る活動があります。7月に入ってから、ひぐみでは、6年生と1年生がペア（一対一ではない場合もあります）になって、学校探検を行っていました。いずれの6年生も優しく1年生を導き、ときに最高学年らしく効率的に、ときに甘える1年生に付き合って多少遠回りしながら、楽しそうに活動していました。校長室のウーパールーパーを見たいとせがむ1年生のために、校長に許可を求める6年生。学校の施設や職員に関して分かりやすく自分の言葉で説明している6年生。そんな6年生の姿に、頼もしさを感じました。

また、休み時間の過ごし方について、6年生と職員で話すということもありました。ある日突然、6年生の代表者数名が、校長室をノックしました。何事かと思ってドアを開けると、休み時間の過ごし方について、校長である私に直談判に来たと言います。迫力満点。休み時間の過ごし方については、職員間でも検討していたのですが、6年生の主張は、その上をいくものでした。そこで、校長の一存だけではなく、関係職員との対話が必要と判断し、次までに6年生が関係職員と話すことを条件に、後日、校長室で話し合う約束をしました。二度、三度と校長室での話し合いを重ねた結果、全校児童のことを考えた新しい休み時間の過ごし方を、児童朝会やポスター等で見事に周知することに成功しました。

これらのエピソードが語るのは、人は人との関わりの中で育つということです。6年生は1年生と関わることで成長し、1年生は6年生のおかげでひぐみの仲間入りを果たしていくという社会的な関わりの大切さや、子どもと大人が真剣に向き合うことで、新しい何かが生まれるという立場を越えた協同の必要性を、私たちに教えています。

強い思いのあるところに教育の原点があり、その強い思いを実現しようと必死に考えもがくところに人の成長があり、うまくいっても、うまくいなくても、強い思いをもって必死に考え、何かを為した（為そうとした）という一連の「学びのプロセス」は、学校の財産になります。新しいひぐみを創造していくであろう「ひぐみっ子の中のひぐみっ子」である6年生に、これからも期待しています。

ひぐみっ子このみなさん、ゆったりと夏休みなつやすを過すごしてください。

こころ からだ りふれっしゅ がつ にち あ  
心も体もリフレッシュして、8月17日に会いましょう！